

選考委員長講評

梅光学院大学 学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で11回目を迎え、これまで416もの団体が応募して下さっています。

応募団体全体を見ると、規模・活動内容共、大きく活発で認知度も高い団体から、地道な活動をコツコツと継続してこられた団体までさまざまでした。今回応募下さった団体は36団体で、1次選考では各分野を念頭におきながら15団体に絞り、2次選考で優秀賞4団体を選びました。活動の規模、独自性、地域活性化力、今後の広がりの可能性、継続年数、メンバー数等を確認し、分野の移行の可能性も探りながら優秀賞を決定。優秀賞から最優秀賞を決定したのは例年通りです。奨励賞は地道に活動을續けてこられた団体に対して、今後も頑張ってほしいとエールを送る気持ちを込めて、3つの団体に差し上げることにしました。



今回の受賞団体は、規模はそれほど大きくはありませんが、自分達で、地域にあった活動を積み上げてこられ、やりがい・生きがい感を持って、楽しみながら自らの元気・パワーを明るく地域に発信し続けておられることが特長です。また、学生の部は2団体の中から1団体が受賞しました。この団体は2回目の受賞です。4年間という限られた大学生活で、継続していくことが難しいといわれる中、28年もの間、長く地道に活動していることが再度認められました。今回選にもれた団体も、次に向けて“いきいき”と活動を続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して下さいと思います。最優秀賞、優秀賞団体の授賞理由は以下の通りです。

○はあとふりい下関（最優秀賞・山口県知事賞）：地域づくり分野

4年間という活動歴ですが、「車いすマイスター®」という登録商標を生み出し、資格を与え、その資格を取った人たちがさらなる研鑽を積み重ね、車いすで不自由を感じている人に対して、健康な人が支えていくということを車いすの人と共にタグを組んで明るく、楽しみながら活動しているということが授賞の理由です。この活動が下関という限定された地域だけではなく、県内いたるところに広がってほしいという願いを込めて最優秀としました。

○NPO 法人聴覚障害者生活支援センターこすもすの家（優秀賞・朝日新聞社賞）：福祉分野

こちらはろうあの方が気兼ねなく集まる場所を作りたいという願いのもと、手作りでその場所を作ってきた団体です。しかも、高齢者だけではなく、B型支援事業を立ち上げたことでその活動が若いお母さんたちにも広がり、それが子ども発達事業に発展しました。それを10年間継続していることと、やりがいの場づくりをすることによって生活を自ら支えるということが評価されました。

○ケダマの会（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：くらしづくり分野

動物愛護の会は県内にいくつかあり、いずれも毎日お世話をしておられ、いつも頭が下がる思いですが、この会是他団体と比べ、活動している人数は少なく、また年数も短いのですが、見捨てられた犬猫を何とかしたいという強い思いのボランティアスタッフも活動を支えていることと活動の幅が広いということで選ばれました。行政にも委託されており、犬猫にとっては最後の砦となっています。

○ママボランティア PLUMMA（優秀賞・山口新聞社賞）：子育て分野

この団体の活動は充実度や活動の幅の広さで同じような活動をしている他を圧倒しています。ママさんならではの目線・発想を基に皆で計画し、皆で実行しているということも評価されました。ママたちが楽しみながら特技をいかし、子育てで悩むママたちを助けていきたいとの思いがよく伝わってくる活動内容です。また、「ぷらんぱ」というパパたちならではの活動も大変特色があると思います。

最優秀賞（山口県知事賞）

はあとふりい下関

代表者 山本 千栄子（地域づくり分野／下関市）

活動の動機・目的

代表者自身、交通事故のため肢体不自由の中途障害者となり、車椅子での生活を余儀なくすることとなった。5年後にやっと生活に慣れ一人で外出できるようになったが、思った以上に様々な障害があり、「買い物も高い所の商品は目も手も届かない」、「気に入った洋服があっても試着室が狭く、試着できない」等の状況で社会の現状は障害者にとってあまり優しくない。自分自身が自由に動いていた時のことを振り返ると、こんなに大変なことだとは「知らなかった」。ただそれだけ。皆も「知らない」だけなのではと思えた時に、当事者から情報を発信しようといこうと発足した。

障害がある人もない人も共に学び、共に考え、共に行動し、共に生きやすい社会生活の実現と「人が優しい、人に優しいまち」を目指して活動。

活動の内容

- ①定例会開催（毎週1回程度）。次に行うイベントの打ち合わせ、計画づくり等を行う。
- ②「第1回車いす体験研修会」を開催（2012年の9月）。
バリアフリーマップ「ハートフリーマップ（障害者が必要とするであろう情報を載せたもの）」を作成するために実施した（講師：理学療法士、作業療法士）。
- ③障害者の目線から作ったバリアフリー情報地図（B4版8つ折り）作成。
下関駅周辺の公共機関・商業施設などへのアクセス方法や所要時間、エレベーター、スロープなどの場所、専用駐車場情報、多目的トイレの設置場所、宿泊施設（バリアフリールーム）などを盛り込む。
- ④「車いすマイスター®講座」を開催。“日本初 下関から発信！”
介助が上手な人（「車いすマイスター®」と名付けた）がたくさんいたら、もっと車いすでの外出が楽になり、家族の負担も軽くなるのではと思い開催。内容は、下記のとおり。
 - 受講者自らが車いすに乗ったり押したりすることで、安全面や技術面を学んでいただく。その体験を通して車いす使用者の気持ちに寄り添い、使用者目線から様々な問題を解決していく事を学び、家庭や職場、まちなかで車いす使用者のお手伝いがスムーズにできるような内容にしている。
 - 「車いすマイスター®講座」は商標登録済み。講師は小倉リハビリテーション病院の先生方。テキスト版を作り、1回の講座受講者に終了証をお渡しする。これまで7回の講座で大学生から最高齢92歳の方まで約90名が誕生。この講座を通じて、障害者だけでなく、高齢者やベビーカーで出かける親子さんにも、思いやりの心をもって接していく社会が実現するのではと思っている。
- ⑤「車いすマイスター」のフォローアップ研修実施。
ステップアップ・実践編。
- ⑥福祉講座「気持ちが優しくなる車いすの授業」を開催。
これまで、梅光学院高校、彦島中学校等20か所以上に
出向いた。
- ⑦福祉フェスタ参加。車いすの移動のお手伝いを実施。
- ⑧「はあとふりい下関通信」発行。平成28年1月から
毎月発行。活動紹介と報告。等。

これからめざしたいこと

さりげなく状況に応じた車いすの介助ができ、当事者とその家族、または友人たちと隣合せて会話をしみながら、外出のお手伝いができる「車いすマイスター®」が全国的に増えるように講座を増やしていく。「ハードは、ハートで変わる」と信じて、「人が優しい、人に優しいまち」をめざし、日々活動を続けていく。



車いすマイスター®講座



優秀賞（朝日新聞社賞）

NPO 法人聴覚障害者生活支援センターこすもすの家

代表者 玉野 和子（福祉分野／周南市）

活動の動機・目的

「やりたい事がなんでもできる場所がほしい」という声から始まり、「お正月は一人だったから淋しかった」「人は集まったけど手話はないからね」との声を聞き、「いつでも OK の家を借りれたらいいねえ」と話が盛り上がった。その後、社会の現状にぶつかりながら、理解のある人との出会いもあり、古民家を借り、重複、高齢ろう者らみんなで毎日手に金づちやスコップを持って修復し、完成したのが「こすもすの家」。この家を作った目標は

- ①ろう者が時間を気にしないでおしゃべりできる場
- ②就労の難しい人達の目的のある生活の場（作業をし、利益を得る。聴覚障害者人材派遣）
- ③独りぼっちなろう者をなくす場 「独りぼっちなろう者をなくそう」との想いで立ち上げ、聴覚障害者が豊かに暮らせる社会を目指す。

活動の内容

平成25年より、「こすもすの家」の事業拡大と若いう者の就労の場となれば…という思いより、就労継続支援B型事業を開始。身近な地域に、作業所、集会所などの多目的機能を有する施設として活動し続けている。ろう者の思いがたくさん詰まった『夢の城』。

①就労継続支援 B 型事業（月～金曜日 9～17時まで）

○生活支援

（作業支援）手芸、木工品の制作、除草作業やハウスクリーニング、内職作業、ポスティング等。

（生活支援）コミュニケーション支援や手話通訳。ゴミの分別方法の助言、諸手続き支援等。

（健康管理）血圧や体温の確認など健康管理。また予防接種の促しや服薬サポート等。

○聴覚障害者ミニデイサービス（毎月第1土曜日）

「地域のデイサービスに行っても話す人がいない」との声から当初より開始。昼食は自炊。

○手話指導・・・依頼があれば、市民対象講習会、学校、医療機関など随時実施。

②土曜日学校（第5週目午前開催）周南市社会福祉センターで手話サークルと一緒に開催。

③子ども発達事業

利用者さんの子どもで聴覚障害や発達障害の子どもも増え、親の相談を受けたことから開始。

○言語聴覚士が指導したり、保育士、子育て先輩ママも相談に乗っている。

○月2回の「遊ぼうDAY」を開始。

子どもたちが障害の有無に関係なく集い、お互い工夫をしあいながら遊び合える場。

○子ども手話クラブ・・・小学生対象に夏休みに6回実施。

④商品販売・・・「憩いの驛・えんがわ」の店舗にて手芸品、木工品等を販売・接客等。

⑤夏祭りを開催・・・聴覚障害者による聴覚障害者も楽しめる夏祭り。ろう者の実行委員会を立ち上げ、「手話サークル」と「ろう団体レインボー」他ボランティアも協力。作業所前にある公園で、地域の方もお手伝いしてくださる。

⑥「ありがとう祭」開催・・・豚汁・おにぎり無料配布、作品展示、作った野菜や作品の販売等。

これからめざしたいこと

「子ども発達事業」について、子どもはむろんのこと、親御さんやご兄弟のサポートにも力をいれたい。「こすもすの家」に行けば仲間毎日会えるという喜びが10年間「こすもすの家」を輝かせてきた。できればここにいらるろう者たちが、老後安心してこれからの暮らしを送ることができるように、みんなで力を合わせて頑張っていきたい。



優秀賞（y a b 山口朝日放送賞） ケダマの会

代表者 橋本 あき子（くらしづくり分野／周南市）

活動の動機・目的

それぞれ個人で犬・猫の保護活動をしていた二人が同じ目標に向け周南地域を基盤にグループを結成。厳しい環境におかれている犬や猫、処分される犬や猫を、一匹でも多く救うことが出来たら、という気持ちから会が始まった。

山口県は平成26年度の犬・猫殺処分数が全国で3番目に多かった。殺処分「ゼロ」をめざし、行き場のない犬や猫の里親探しを行う。また、これ以上不幸な命を増やさないための動物愛護の啓発活動や増えない・増やさない活動に力を入れる。人や犬・猫にとって優しい社会づくりを目指す。

活動の内容

①保護動物の飼養（保護施設において）

- 約50頭の保護犬・猫の毎日2回の餌やり。散歩やしつけ。住環境の清掃整備。投棄や通院。
- メンバー以外でも、自宅で、保護した犬・猫の預かりを行うミルクボランティアや家に慣らす役割、避妊・去勢手術をしたりと、ボランティアの人たちが支える。

②里親探し

- ホームページやポスター等で募集。
- 犬猫の譲渡会「ケダマの会譲渡会」を毎月、周南市にて開催。

当日譲渡は行わず、手順を踏む。アンケート（事前調査票）記入→自宅でトライアル飼育→正式譲渡。譲渡条件を厳守できる方のみとする。実績：平成27年度 22回開催、139匹譲渡。

③動物愛護に関する啓発活動（山口県の動物愛護推進委員を代表者が委嘱されている）

- 動物愛護の展示や呼びかけをして、飼育マナーや飼育責任を啓発する。
- 飼い犬や飼い猫の迷子、飼育困難や周南市の野犬問題などの相談にも対応。

④周南市立小・中学校へ動物愛護の本を紹介する「ブックリスト」を作成し配布。

⑤猫問題の取り組み

- 山口県が推進している、飼い主のいない猫の不妊去勢手術（TNR 活動）の相談に、捕獲器貸し出し等で対応。TNR とは、【Trap（捕獲） Neuter（避妊手術） Return（元の場所に戻す）】野良猫の繁殖制限方法。当会对応手術数は、平成26年度 60匹 平成27年度 107匹。

- TNR 活動の普及、支援者を集めるための啓発事業を実施。その一環として、山口県生活衛生課より講師派遣を受け「地域猫活動お届け講座」を周南市で初めて開催。「地域猫」とは何か、どのような取り組みか等を説明された。※「地域猫」は地域住民の認知と合意が得られている飼い主のいない猫のこと。

これからめざしたいこと

- 地域の方の理解を得ないと難しいので、啓発活動に力を入れ、「地域猫活動」を通して、人と動物の調和のとれた快適な暮らしづくりをめざしていく。
- 野良犬の多い周南市という地域性において、「啓発」だけでなく、直接小さな命を救い、バトンを繋げることに力を注いでいく。



地域猫講座／周南総合スポーツセンターにて

優秀賞（山口新聞社賞） ママボランティア PLUMMA

代表者 上野 憲子（子育て分野／下関市）

活動の動機・目的

つどいの広場 梅光ほっとみーる（梅光多世代交流支援センター）を利用しているママで立ち上げた。子育てしながらできることはないか？子育て中だからできることがあるのではないかと、ママボランティアを発足させた。

子どもを持つ親同士、様々な悩みを共有することで、一人で子育てしている不安や不満を少しずつでも解消していく。「子育て中でも、子育て中だからこそ出来ることがある」との思いから、常に子育て中の親子目線で活動が続けている。

活動の内容

子ども向けの企画（一般にも募集）

①公園であそぼう・・・隔月開催。

「深坂の森で川遊び&ピザ作り」「ひこっとらんど（西山海水浴場）」「園芸センター」等。

②えほん倶楽部・・・月1回、ふくふく子ども館、川中公民館にて開催。

我が子と一緒に絵本を楽しみながら、読み方等を勉強し、皆の前で絵本お話を実施。

③ぶららば（お父さんボランティアグループ）とあそぼう・・・2か月に1回程度。

「体を使ってあそぼう！」・・・大きなトランポリン、段ボールキャタピラー、水遊び等。

④ハロウィン仮装パーティー、クリスマスパーティー一芸大会。

⑥ふくふくフェスタ出演。クリエイティブステージで、「うたってハッピー♪」

母親向けの企画（一般にも募集）

①こあらうんじ・・・月1回 環境みらい館で開催。

○メイク講座、廃油でエコキャンドルづくり、ファイナンシャルセミナーの話等。

○幼稚園情報交換会開催。座談会形式で、在園ママを囲んで幼稚園のイマを聞く。

○トイレトレ相談会、ママ友名刺（世界に一つだけの手作り名刺）交換会等。

②親子防災安全教室

行政の方をお呼びして、ハザードマップで、危険さを自覚したり、避難のタイミング等を学習。

③ゆるすてっぷ・・・月1回実施。お母さんたちの女子力向上をめざす。手芸を主に開催。

④運営会開催（月1回定例）。イベント準備や報告を行いながら、スタッフ同士の共有理解を図っている。

⑤PLUMMA通信発行（月1回／イベントお知らせと報告等）。

子育て情報誌『楽ママ』発行（年2回／今周りの母親が気になっていることや、他県の子育て情報等）。

これからめざしたいこと

○子育て支援はいろいろな所でされているが、母親を助けていきたい。母親目線でお母さんたちの楽しみを企画し、お母さんたちが楽しめたり、あわせて子どもたちが楽しくなるようにしていきたい。

○今後も子育て真っ只中で、子育ての悩みをたくさん抱えている母親、遊び場に困っている子どもたちとともに、子育てを楽しむために、自分たちにできることを考えて実施していきたいと思う。



こあらうんじ
「家族の夢を叶えるお金の話」



こあらうんじ
「幼稚園情報交換会」

コープやまぐち奨励賞 NPO 法人おれんじの会

代表者 渡邊 利絵（福祉分野／下関市）

活動の動機・目的

特発性大腿骨頭壊死症の患者は、数も少なく、根本的な原因がわからない為、予防法もなく、治療法も確立していないことから、悩みを一人で抱え込んで孤立する患者は少なくない。また、働き盛りの世代では、発症をきっかけに休職や退職を余儀なくされて、その後の生活基盤が不安定になってしまうことが問題。病気に対する無理解や偏見から復職や再就職がうまくできないケースもある。特に女性の就職難は深刻。家庭内でも、肩身の狭い思いをしている人も多い状況にある。

当会は、患者の立場より、特発性大腿骨頭壊死症の原因の究明および予防・治療法の確立をもとめ、患者と家族の交流を深めるとともに、社会に対しては正しい理解の為の啓発活動を行い、医療福祉の進歩発展に寄与する事を目的とする。

活動の内容

①医療講演会（一般の人を対象とした市民公開講座）を主催。海峡メッセ下関にて。

テーマ：股関節の病気と歩行障害 講師：済生会下関病院整形外科医。後、療養相談会実施。

②RDD2016 in 山口 世界希少・難治性疾患の日 rare is not RARE～その先を変える～開催。（山口実行委員会主催、おれんじの会 事務局）障害者団体、市民芸術団体、県のあいサポート運動の研修会も入れて、幅広く協働した。

○トークセッション「難病患者が働くということ」

働く者＝難病患者と雇用側＝障害者雇用に積極的な事業者との意見交換で盛り上がった。

○梶山シゲル似顔絵：ギャラリー

○コンサート：下関リコーダーアンサンブル

○パネル展示：難病のことを知ってください 県内患者団体紹介、難病患者作品展

○カフェコーナー、手作り品バザー、子どもたちの絵画展、ハンドケア・フットケア&アロマセラピー体験等。

※当日は海峡ゆめタワーの特別ライトアップ。心に温かいつながりの灯をともしよう、という趣旨でオレンジ色にした。

③山口県主催の難病講演会・交流会が県内3か所で開催。

当会は、防府会場を患者交流会の場として設置。

④おでかけ便利帳「街中トイレ探検隊」（パンフレット）作成。

体が不自由な人のためのトイレを取材し、使い易さや要望のコメントを使う側から寄せたもの。

⑤ピアサポート（電話およびメールによる相談／事務局による）、随時。

⑥海峡メッセ下関の20周年記念会場にパネル展示

⑦ブログ開設、会報「おれんじ通信」発行（月1回）。他。

これからめざしたいこと

難病患者団体は、常に医療福祉の受け身の側であり続けるのではなく、地域の中で、最新の医療情報を一般の方々にも還元していくリーダー的役割が果たせると考えている。難病と共に地域で生活していくためには、「皆ちがってみんないい」コミュニティの実現が必要。難病や障害のある人がその存在を知ってもらい、街に出られるように、当事者ならではの発信をしていく。



第7回市民公開講座
テーマ：股関節疾患と歩行障害



世界希少・難治性疾患の日
RDD2016 in 山口 トークセッション

コープやまぐち奨励賞 点訳グループ スズランの会

代表者 中村 明美（福祉分野／山陽小野田市）

活動の動機・目的

視覚障がい者の方々に、情報提供し、また、人的交流をはかることで、障がいのある方も地域で生き生きと生活できることを目的とする。

活動内容

- ①市広報の点訳。併せて会員による月刊誌「雑記帳（点訳）」を毎月発行。
- 月刊誌「雑記帳（点訳）」は、新聞記事・医療に関する記事・お勧めの本の紹介・ことわざ・など
など・健康に関する記事などとりまぜたものや、視覚障がい者の声や作られた短歌・川柳を掲載
するなどして、一方的な情報提供にならないように心掛ける。
- 月2回の活動日には、午前中に点訳作業を行い、午後からは視覚障がい者の方も交えて交流（昼
食を一緒にとったり、月刊誌への原稿依頼等）。パソコンの操作を教えたり、中途失明の点字が読
めない方に、視覚障がいの方が点字本を読んであげたり、視覚障がいの方の手製のお菓子を
囲んで楽しくおしゃべりしたりしている。家に閉じこもりがちだったけれど、この会に参加して、
前向きになられた方もおられる。
- ②視覚障がいの方が希望する本の点訳をし、市の公共図書館に収めている。
- ③地域コミュニティの拠点である「龍遊館」で、サロン「かふえ・ど・あえる」を毎月1回開催。
障がい者の集まる場がほしいとの願いを叶えるため、障がいを越えた交流の場として立ち上げ、
サポートしている。
- 身体的な障がいをもつ車いすの方たちとの交流会（茶話会）をもちながら、視覚障がい者の方に
パソコン指導や情報交換を行ってきた。交流が進むにつれ、車いすの方も点訳に興味をもたれた
り、車いすで誘導するサポートをされたりと、交流に広がりを見せている。
- 茶話会以外にこれまで、イチゴ狩り、車いすダンスの発表、コンサート等を開催。
コンサートは、地域の方々にも声をかけて一緒に歌って交流し、多くの方で賑わい楽しんだ。
- ④点字体験学習に出向く。
- 点字体験学習は、最近では高泊小学校に出向き、4年生に体験してもらう。点字の仕組みの説明
後、点字盤を使って実際に点字用紙に文字を一つ一つ丁寧に打ち込む。学習の最後にはしおりを
渡し、それに思い思いの言葉を点字で打ち込み、世界でひとつだけのしおりができあがった。
- 山陽小野田市児童館（7館）を、3、4館ずつに分けて隔年ごとに点字指導。
- 小野田高校へアイマスク体験に出向く。

これからめざしたいこと

点訳して情報提供するだけでなく、障がい者同士が支えあい、話し合える場の提供を通じ、こ
れからも障がい者同士の交流の広がり、障がいを越えた交流、障がい者理解の輪が地域に広がる活
動につなげられたらと思って活動していく。



コープやまぐち奨励賞

古典芸能南京玉すだれ山口保存会

代表者 勝間 幸次（地域づくり分野／防府市）

活動の動機

日本の伝統芸能である「南京玉すだれ」の楽しさ、おもしろさを子どもから大人の方まで、広く県民の皆さんに知って頂くことと、「南京玉すだれ」の普及と継承を図るため、2006年に「古典芸能南京玉すだれ山口研究会」発足。会員数も10名に増えたので研究会を発展的に解消し、「古典芸能南京玉すだれ山口保存会」を2008年に創立した。

目的

会員が習得した「南京玉すだれ」の芸で、福祉施設等への慰問やいきいきサロン等への参加活動、また地域のイベント、放課後子ども教室等へ参加して、地域社会への貢献活動を行う。

活動の内容

保存会が継承している「仙助流 南京玉すだれ」は、和妻^{わづま}の一種として、文化庁から、社団法人日本奇術協会（現公益社団法人）に対し、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財に選定（平成9年）されている。南京玉すだれは「伸ばす、返す、捻る」の三つの動作でいろいろな形を作る「見立て芸」。講習や体験教室を開催しての保存活動や習得した芸を披露している。

①講習会を開催（見学・体験は誰でも自由に参加できるように日曜日に開催）。

○毎月1回、中級者と初級者を対象にそれぞれ、演技や唄の練習を実施。

○慰問時やイベント参加時に少しでも多くの芸を皆さんに見てもらい、楽しんで頂くために、女性会員の希望で「傘踊り」を2008年から、「ささら踊り」を2009年から継続して練習している。

②福祉施設等の慰問・地域イベント等参加。

○慰問活動は、

デイサービス（はびね防府、かがやき、防府幸楽苑等）、柚野地区敬老会、右田市上敬老会等。

○地域イベントは

生き生き倶楽部・高齢者教室（富海公民館）、防府天満宮梅まつり、山口大神宮春祭、富海ホテルまつり、柚野ふるさと夏まつり、佐波の里山きずなの森オープニングイベント等。

○子ども育成関連

山口市子ども育成連絡協議会、勝間放課後子ども教室、右田放課後チャレンジ教室等。

③ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者による自主企画公開講座開催。

④山口市教育支援ネットワーク「やまぐち路傍塾」に新規登録。

これからめざしたいこと

○若い世代に興味を持ってもらうため、親子体験教室の開催や放課後こども教室等にも積極的に参加して、人材発掘に力を入れ後継者の発掘、育成につなげていきたい。

○南京玉すだれを普段直接目にする機会のない、県内の離島や山間僻地の小学校児童等に、日本の伝統芸能を直接見る機会を作って、演技披露、体験を行って楽しんでいただきたい。



きんもくせい
老人ホーム・デイサービス
センタークリスマス会



「NPO法人さわやか
中西」にて ささら踊り

コープやまぐち奨励賞・学生の部 梅光学院大学ハンドベルクワイア

代表者 藤田 千思（福祉分野／梅光学院大学）

活動の動機・目的

代々受け継がれてきた「歌うベル」「笑顔で楽しく演奏」を基本方針として、学内での演奏活動に加え、病院や老人ホーム、社会復帰促進センター、自衛隊基地など様々な場所で、梅光学院大学ハンドベルクワイアらしい演奏をする。

ハンドベルの音色に魅了されて、「自分たちの演奏により、多くの方の笑顔や感動、心の癒しになれば」との思いで演奏活動を実施。

活動の内容

約28年間、週2回の練習と、地域にも数多く出向いて演奏活動を続けている。

①大学関係の演奏活動

- 梅光学院大学大学祭（ルーキス祭）、梅光学院大学クリスマス礼拝。
- 梅光学院大学セシルコール第40回定期演奏会。
- ネパール大地震チャリティーコンサート。
- 第20回九州ハンドベルフェスティバルで演奏。互いに演奏を聴き合うことで、技術の向上を目指し他団体と交流。
- 第5回大学図書館学生協働交流シンポジウムで、梅光学院が主催大学となり、岩手県から鹿児島県までの図書館に関わる大学生や職員の前で5曲演奏。

②施設や病院での演奏活動

- 国立療養所菊池恵楓園で演奏。
- 関門医療センター、あおぞらの里、北九州市立ひかり工芸舎、北九州市モナトリエ等。
※誰でも気軽にハンドベルの演奏を楽しんでもらいたいと思い、演奏する場所や聴衆の年齢層、曲の希望などを聞き、演奏する自分たちはもちろんのこと、聴いて下さる方に楽しんでもらえるように考え、演奏後に「癒された」「またきてね」と言ってもらえることを目指している。

③地域での演奏活動

- 長府企業フェスタ・海上自衛隊小月航空基地にゲスト参加。
- 梅光学院幼稚園のクリスマス会、美祢社会復帰促進センターのクリスマス会で演奏。
- 下関市生涯学習プラザのクリスマス会では9曲演奏。他多数。

これからめざしたいこと

これまで先輩方が築いてきた依頼先との関係を大切にするとともに、毎年新しい依頼も積極的に増やしていきたい。ハンドベルは綺麗な音色に癒されることも適度に脳や身体を動かすこともできることから、音楽療法としても注目されており、今後は病院や老人ホーム、幼稚園への演奏活動にさらに力を入れ、音楽療法という福祉分野の面で貢献していきたい。



関門医療センタークリスマス会での演奏



梅光学院大学ルーキス祭での演奏会

コープやまぐち組合員賞 オカリナ同好会きんぎょ

代表者 橋本 道子（くらしづくり分野／周防大島町）

活動の動機・目的

4～5人でオカリナを吹く会を始めたところ、図書館まつり、地区の会（茶粥の会）などからお呼びが掛り、喜んで演奏させてもらった。

演奏をする毎に、地区の方、施設、学校と範囲が広がり、反応をみながら、この地区での音楽（文化）の本当に身近な楽しみがないことに気づき、申し出があれば必ず出かけ、楽しみを届けたいとの思いで活動している。

活動の内容

①要請を受けてオカリナ演奏を実施。練習は代表者宅で月2回、あとは自主練習。

- ・東和図書館まつり
- ・地区のふれあいサロン
- ・たちばな園まつり
- ・白寿苑・敬老会参加
- ・保育園（日良居、西方寺、油宇）
- ・島中小学校
- ・西方地区茶粥の会
- ・うずしおフェスタ
- ・城山小学校
- ・コープやまぐちピースフェスタ

②「周防大島観光ボランティアガイドの会」による『ふるさと紙芝居』に参加。

紙芝居の前後に音楽を入れて楽しんでもらっている。

毎年7月末～10月までの毎日曜に参加。毎回5～8人くらいの合奏とソロやデュエットを入れて、子どもさんが多い時のため用に子ども向けの曲を用意しておく。

③「オカリナカフェ」を昨年より開催。

家からあまり遠くへ出られないお年寄りが多いこの地区の実情を考え、自分たちの方が出かけていくオカリナカフェを開催。

会場は会員の自宅や知り合いの家を借りて、近所の方々に声をかけている。これまで3つの地区に出向いて演奏。参加費100円（お菓子・コーヒー付）を頂いて、みんなで歌ったり、おしゃべりもしたりで大好評だった。人数は多い所で20人、少ない所で10人。

身近な方々の動向がわかり、オカリナというシンプルな優しい音色をこれからも届けたいと思っている。

これからめざしたいこと

会員は最高齢83歳だが、全員ほとんど休むことなく参加し、会場や聴き手に合わせて、次々に曲をこなして楽しんでいる。

アマチュアであること、年齢的なことに甘えないで、常に上をめざして良い音楽をすることをモットーに活動していく。練習や、演奏を重ね、技量をみんなで上げていきたい。



コープやまぐち組合員賞 絵本の会むつみ

代表者 山本 洋子（子育て分野／光市）

活動の動機・目的

光市立図書館の「絵本の読みあいグループ」が母体となり、浅江地区のメンバーで発足。地域の小学校に「おはなし会」（絵本の読み聞かせ）を提案したところ、快く受け入れてもらい活動が始まった。

絵本を通して、子どもたちに辛いことや悲しいことを乗り越え、生きていくことの素晴らしさを伝えとともに、人を思いやる優しい心、豊かな想像力を育てるお手伝いができればとの思いで活動している。

活動の内容

- ①浅江小学校で月2回、昼休みにおはなし会を実施。毎回、低学年が主となるが、30～50人の子どもたちが来てくれる。当日の担当者2～3人が本を選び、読み聞かせをしている。
- ②9月に1年生のおはなし会を授業の1時限を頂いて実施。4～5クラスあるので、前半・後半に分かれてそれぞれ20分間ずつ行う。絵本のお話の楽しさを伝え、お昼のおはなし会に誘う。
- ③3月に6年生のおはなし会を授業の1時限を頂いて実施。卒業する6年生にお話のプレゼント。絵本から離れている6年生だが、改めて絵本の素晴らしさに触れてもらう。
- ④夏の夜のおはなし会を実施（今年で7回目）。

子どもたちがワクワクドキドキするような体験ができないかとみんなで話し合って始めた。

子どもたちを怖いお話の世界へと誘い込み、想像力を膨らませ、楽しんでもらいたいとの思い。

- 浅江公民館と公民館文化部の協力を得て、毎年7月中旬、夜7時から1時間、部屋に暗幕を張って真っ暗にし、ろうそく1本の灯りの中、絵本・語り・紙芝居を実施。語りは他団体の「語りの会」の方が協力実施。文化部の方（主に男性）には、前日の暗幕張りや、当日は夜のイベントなので子どもたちの見守りをしてもらっており、心強い協力者である。

- 絵や小道具、照明でメインとなる絵本の世界を演出し、好評。障子に切り絵を貼ったり、絵を描いたりして、毎年、絵本の内容に合わせた背景を考えるのが楽しみの一つとなっている。参加者は大人・子ども合わせて、毎年100人前後。

『ゆきおんな』『やまんばと3まいのおふだ』『かっぱ』等、絵本4話、語り2話、紙芝居1本。

これからめざしたいこと

今後は、学習会・講演会等で専門家の方たちから学んだことを活かし、誰でも気軽に参加できるよう、読み聞かせの仕方・絵本の選び方・おすすめ絵本のリストなどをまとめたガイドブックを作りたい。子どもたちと楽しい時間を共有できることを喜びとし、自分たちを待っていてくれることを励みとして、これからも活動を続けていきたい



コープやまぐち組合員賞

いきいきサロンたかね “ハンドベルの会”

代表者 高井 邦子（地域づくり分野／山口市）

活動の動機・目的

地区住民の人たちのつながりを深めるため、地区のいきいきサロンを高齢者から赤ちゃんまで、すべての人を対象としたサロンとして立ちあげた。そのスタッフが会の企画運営だけでなく、スキルアップや社会参加の活動もしていこうと「ハンドベルの会」と名付け、会議の後、ハンドベルを練習していたが、現在は他の様々な活動に取り組む。

活動の内容

①いきいきサロンの運営（隔月に1回開催）。

○企画内容を決めるため、毎月1回スタッフ会議を実施。＝「ハンドベルの会」

スタッフは自治会長、福祉員、老人クラブ会長、男性有志の会「熊野会」会長、ボランティアスタッフ（地区在住の人、定年退職者でUターンしてきた人に呼びかけ）。

○内容は、「ハンドベルの演奏」や「おじさんズ」のギターの伴奏に合わせて歌う。

他にも「ときめきファッションショー」、「トウガラシ魔除け作り」、「こけ玉作り」、「なつかしいあやとり」、「地域の駐在さんのおはなし」、「季節の行事」等。

毎年恒例は、「干支づくり」

地区在住の陶芸作家の方に指導いただき、一人ひとり色んな表情に出来上がる。

○地区の人に良く知ってもらうため、毎回、各班ごとに回覧で参加者を募集している。

②子ども会との行事も開催。

○夏休みカレーライス会食会。ゲームも実施。部活帰りの中学生もお腹を空かせてやってくる。

○夏休みラジオ体操に大人も参加（実施日を回覧で知らせる）。

子どもたちが地域の中で、多くの大人とふれあいながら成長していくことを大切にしている。

③市や地域の行事にボランティアとして参加。

ねんりんピック、地域祭り、地区文化祭他。

※田舎でも少子高齢化、また共働きの家庭がほとんどで、地域のつながりの希薄化を懸念していた。また情報の共有化もなくなっていた。そこで、いきいきサロンを企画運営することで、地域の人たちをつなぎ、一緒に活動の場を広げながら地域に発信していきたいと願って活動をしている。

これからめざしたいこと

子どもたちや地域の人たちとの交流が進んできたことが成果。夏休みのカレー会食は、共働きの親からも喜ばれている。

「高根地区に住んでよかった！」と言ってもらえるよう、そして「みんなで手をつないで一緒に齢を重ねていこう」を合言葉に無理せず、楽しく活動していく。



ハンドベルの演奏



夏休み子どもたちと一緒に
王様じゃんけんゲーム